

〔問1〕

次の（1）から（10）の林学に関する語句群の中から5つ選び、その意味を簡潔に説明せよ。

- （1）標準伐期齡
- （2）坪刈り
- （3）法正林
- （4）林内路網密度
- （5）末口二乘法
- （6）計画勾配（計画堆砂勾配）
- （7）クビアカツヤカミキリ
- （8）東海自然歩道
- （9）外来生物法
- （10）SATOYAMA イニシアティブ

〔問2〕

次の（1）から（10）の問いに答えよ。

著作権保護のため、非公表（択一式 10問）
3ページ以降に例題を掲載しています。

〔問3〕

次の（1）から（3）の問いの中から1つ選び答えよ。

（1）森林の有する多面的機能を将来にわたって持続的に発揮するためには、森林資源の適切な利用や、間伐、主伐後の再造林等の森林整備を着実に実施する必要がある。また、森林の「自然的条件」や「社会的条件」に応じて、「複層林化」、「長伐期化」、「針広混交林化」、「広葉樹林化」を推進するなど、多様で健全な森林への誘導も必要となっている。

これに関して、以下の①、②について合わせて**800字程度**で説明せよ。

- ① 「自然的条件」、「社会的条件」をそれぞれ挙げた上で、「複層林化」、「長伐期化」、「針広混交林化」、「広葉樹林化」を推進すべきと考えられる森林とはどのような森林か説明せよ。
- ② 「複層林化」、「長伐期化」、「針広混交林化」、「広葉樹林化」の4つの中から2つ選び、その施業の内容と施業により見込まれる効果を説明せよ。

（2）近年、地球温暖化への関心の高まりから、木材を使った建築の需要が拡大する中、新たな木質系材料として、CLT（直交集成板）が注目されている。

CLT（直交集成板）の製造と製品の特徴を述べた上で、建材としての利点と産業振興における利点について、**800字程度**で説明せよ。

（3）里山林では、人々が生活の中で日常的に森林の整備・管理を行うことにより、森林の有する多面的機能（生態系サービス）が持続的に発揮されてきた。しかし、近年、里山林に対する人の関わりの縮小に伴い、これらの機能が低下している。

これに関して、以下の①、②について合わせて**800字程度**で説明せよ。

- ① 里山林が有する生態系サービスについて、具体的に説明せよ。
- ② 里山林がかかえる問題点を挙げた上で、問題点を解決する方策について、下の【語句群】の中から1つ使用し、説明せよ。

【語句群】 林業の6次産業化 ・ 農泊 ・ 森林サービス産業 ・ ワークেশョン ・ UJIターン ・ アドプトフォレスト

以下の問題は例題です。（令和3年度大阪府職員採用試験で実際に出題された問題とは限りません。）

例題1 林分材積の調査法に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 林分材積の調査法には、対象地の林木をすべて測定する全林調査と、一部分を抜き出して調査する部分調査があるが、前者でなければ統計的な推定ができない。
2. 林分材積は森林経営をする上で最も重要な指標なので、特に人工林では頻繁に、できるだけ正確に調査をして日頃から把握しておくことが必要である。
3. 標準地法を用いて森林の中に幾つかの標準地を設ける場合、標準地は全体を代表するよう意図的に選ぶ。
4. 一般に、調査する森林が高齢で低密度なほど、標準地の面積は小さくてよい。
5. ビッターリッヒ法を用いる場合、林縁付近に標本点を選ぶと正の偏りを生じやすい。

【正答：3】

例題2 トランシット測量において生じる水平角観測の誤差に関する次の記述 a～d のうちには、望遠鏡の正位・反位の観測値の平均をとることによって消去することができるものが二つある。それらを選んでいるのはどれか。

- a. 視準軸が水平軸に直交していないことによって生じる誤差
- b. 平盤気泡管が鉛直軸に直交していないことによって生じる誤差
- c. 目盛盤の刻み間隔が均等でないことによって生じる誤差
- d. 水平軸が鉛直軸に直交していないことによって生じる誤差

- 1. a, b
- 2. a, c
- 3. a, d
- 4. b, c
- 5. c, d

【正答：3】